



# あいかんきょう



2016/4/20

会報・第127号



## 「花菖蒲」

撮影地：愛知県岡崎市東公園  
撮影日：平成26年6月5日

提供：林 慶子氏  
株式会社環境総合リサーチ 中部事業所  
(旧 株式会社ユニチカ環境技術センター)

## 四季折々

かつて、川端康成氏が日本人初のノーベル文学賞をスウェーデンで授賞する際の記念講演の中で、道元の「春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえて冷しかりけり」を引用し、日本の四季、心、美意識を浮き彫りした演説を行い、聴衆に感動を与えたそうです。▼さて、最近の日本の四季はどうでしょうか。昨年九月、関東・東北地方を襲った大雨により鬼怒川が氾濫し、死者を出す大惨事となったことは記憶に新しいことと思います。また、今年の冬、岐阜県の飛騨高山では昨年の大雪から二転、雪が降らず、スキー場が雪不足で困ったとのこと。川端康成氏は、あの世から今の日本をどう見ているのでしょうか。これは、温暖化や異常気象と関係しているのでは？▼昨年末、フランスのパリでCOP二十一が開催され、気候変動対策に関するパリ協定が合意されましたが、約束を守り、実行することが日本を始め、各国の責務であり、人類の使命です。▼人類に課せられた命題「自然との共存」、いつまでも掛け声のままでは、自然はもう待ってくれません。▼本誌が皆さんのお手元に届く頃には、日本人がこよなく愛す桜前線は東北あたりでしょうか。「桜よ」、日本を、日本人を見捨てないでください。

# 委員会等活動報告

## ○総務委員会

平成二十七年第四回となる総務委員会を二月二十四日に開催しました。会員の皆様から多数の応募をいただきました平成二十八年「環境に関する喚起標語」の作品の選考を実施しました。素晴らしい作品ばかりで選考には大変苦労いたしました。応募いただいた会員の皆様には、心から感謝します。

また、三月に実施しました景況調査につきましては、現在集計を行っております。結果につきましては、会報七月号にて報告させていただきます。平成二十八年度も愛環協の各事業に参加いただきます様、ご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

総務委員長 大野 哲

## ○企画委員会

平成二十七年第三回の企画委員会は都合により三月二十二日に開催いたします。平成二十七年の主な活動としては昨年十一月に開催された『特別企画セミナー』の企画運営です。そしてもう一つ三月に予定されてお

教育研修委員長 服部 寛和

ります同じく『特別企画セミナー』の応援であります。委員会では、関係した二つの企画セミナーについて反省等話し合い、また平成二十八年度のテーマなどについても検討をしていきます。

企画委員長 柴田 金作

## ○教育研修委員会

一月二十五日に十一名が参加しSOP研修会を開催しました。(株)ユニケミー中安史隆氏からSOPの重要性と作成方法の講義を受け、その後二つのグループに分かれ実際にSOPを議論しながら作りました。参加者同士の交流のある有意義な研修会となりました。

平成二十八年度も研修会を企画しております。環境測定分析の基礎情報や精度管理などの研修を提供していきます。講義編成などに皆さんの要望をお聞きしながら更に有意義な研修会にしようと思えます。六月十日(金)予定の新任者研修会及びそのほかの研修会に多数の参加をお願いいたします。

## ○広報委員会

二月十日に平成二十七年第四回目の広報委員会を開催し、四月二十日発行予定の会報誌「あいかんきょう」(二七号)の編集内容を決定するとともに、七月発行予定の二二八号の編集方針についても検討を行いました。

今回の二二七号は、各委員会報告及びブロック会議報告に加え、賛助会員企業である三浦工業株式会社様を紹介させていただくとともに、水素社会をテーマに佐野監事による連載記事がスタートします。詳細は、本誌をご覧ください。

また六月十四日に排水調査におけるWET手法や再生エネルギーである地下熱利用等を演題とした「環境月間講演会」を計画しています。乞うご期待ください。

広報委員長 菊谷 彰

## ○技術委員会

### ☆水質・土壌ワーキング

平成二十七年第一回共同実験では設定濃度に対して試料量が少なく共同実験に支障がでた。該当機関各位には大変ご迷惑をおかけしました。

共同実験の項目及び濃度を検討し、最適濃度を適量配布でき

るように努力いたしますので、平成二十八年度も共同実験に多数の参加をお待ちしております。

カドミウムの特別管理産業廃棄物の判定基準、最終処分場からの放流水基準等が平成二十八年三月十五日から変更されました。カドミウムの検定方法についても「産業廃棄物に含まれる金属等の検定方法(昭和四十八年環境庁告示十三号)」及び「特別管理一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物に係る基準の検定方法(平成四年厚生省告示一九二号)」の改正がありました。

平成二十八年度第一四半期に会員各位に改定規定集を配布できるように準備しています。

☆大気・臭気ワーキング  
平成二十七年第二回共同実験結果検討会を一月十三日共同実験結果の解説、質疑応答、事前アンケートで意見を募集し、質疑応答を含めたディスカッションを二十一名の参加で行いました。

平成二十八年度は勉強会を予定していますが、「日環協・環境セミナー全国大会」が十月六日及び七日で行われることになっているので、勉強会は十二月(一)月ごろに開催の予定をしています。

詳細については次号で報告致します。

対外交流委員長 鎌田 務

します。

## ☆騒音・振動ワーキング

二月十二日に日本特殊陶業市民会館で騒音・振動分野の知識及び測定レベルの維持・向上を目的とした勉強会を二十名の参加で開催しました。

内容は基礎講習(障害物等による回折効果の影響、騒音・振動を要因とした苦情とその対応例)遮蔽物があった場合の測定、暗騒音が定常的に発生している場合の測定、デイスカッションです。

平成二十八年度は第二回共同実験の内容を検討中で詳細が決まり次第報告します。

技術委員長 長尾 隆宏

## ○対外交流委員会

二月十九日に平成二十七年第三回委員会をし、今年度事業の総括と次年度活動の検討を行いました。平成二十八年度については、当面五月に開催される定時社員総会の特別講演の講師候補者について検討を行いました。また、昨年同様に、近隣地域での施設見学会を行うことで意見の一致を見ました。今後、理事会での承認を得て、進めることとしました。なお、実施時期は秋頃を予定しています。

○ホームページ委員会

平成二十七年第五回、六回のホームページ委員会を十二月七日、三月四日に開催しました。ホームページの更新作業については十一月三十日、二月七日、二月二十九日に実施しました。第五回委員会では平成二十八年度の写真コンテストの実施要領の作成を行い大枠が決まり、次回委員会にて承認後理事会に諮る事となりました。

継続案件であるホームページの個別詳細マニュアルの整備については完成した会員名簿のPDF編集手順の再検討を実施。また資料保管庫の整備においては十二月の理事会において各委員長に諮問を行っている状態です。

第六回委員会においては、平成二十八年度の写真コンテスト実施要領の最終確認を実施し、詳細を決めて理事会への提出案を作成しました。その他の継続案件については次回に持ち越しとなっております。

平成二十八年度第一回の委員会の開催予定日は四月二十五日に決まりました。  
ホームページ委員長 金田 哲夫

○災害緊急時対応委員会

平成二十七年第四回の災害緊急時対応委員会を二月二十四日に開催しました。三月二

十二日に開催しました特別企画セミナーの第二部「BCP（事業継続計画）の構築について」の運営について最終確認を行いました。BCP構築セミナーでは、運営サポートをさせていただきますました。皆様の事業所のBCPがより良く運用されることを期待しております。

また、平成二十八年度におきましては、愛知県との防災協定に基づいた共同防災訓練を実施する計画を進めております。実際の被害を想定した訓練がスムーズに実施できるように体制の見直しを進めて参ります。協力会員様の協力をお願いいたします。

災害緊急時対応委員長 大野 哲

●ブロック会議報告

\*\*\*\*\*

●第一ブロック

平成二十七年第二回ブロック会議を、二月二十三日午後十三社中九社十名と河野代表理事・事務局の参加で実施しました。

河野代表理事より日環協の動向も含め、内外情勢について紹介いただきました。続いて第三、四回理事会報告のトピックから活動状況を報告し、セミナーな

ど今後の予定を紹介しました。最後に、河野代表理事から今秋に岐阜で開催予定の日環協・環境セミナー全国大会の概要紹介をいただき、技術発表への積極的な応募をお願いしました。

会議終了後、有志による懇親会を開催し、情報交換と交流を深めました。

第一ブロック長 平松 正義

●第二ブロック

平成二十七年第二回を二月二十六日の午後四時から協会事務局会議室にて、全二十社中十四社の参加で開催しました。

会議では、平成二十七年下半期の愛環協の活動の報告を行いました。また、本年十月開催の日環協・環境セミナー全国大会への当ブロックからの発表は二題となりました。

その後、河野代表理事より、三月開催予定の特別企画セミナーの案内、当協会の災害緊急時対応についての動き、本年十月開催の環境セミナー全国大会の開催概要について説明を頂きました。

ブロック会議の終了後代表理事にもご参加をいただきました。三名で懇親会を行いました。仕事や家庭など広い話題を肴に、

明るく楽しい懇親会となりました。

第二ブロック長 林 昌史

●第三ブロック

平成二十七年第二回の第三ブロック会議を二月二十五日に十社中五社の参加で実施しました。議事として二回の理事会報告及び意見交換を行いました。また河野代表理事に出席いただき三月に開催される特別企画セミナー及び日環協・環境セミナー全国大会その他について詳細に説明をいただきました。会議終了後皆様と懇親会を行いました。

第四ブロック長 柴田 金作

●第四ブロック

第四ブロックの平成二十七年第二回ブロック会議は二月二十九日午後三時三十分から愛環協事務局で十三社中七社七名の参加で開催しました。

まず平成二十七年第四回五回理事会の報告を行いました。次に、河野代表理事から平成二十七年日環協セミナー全国大会の様子についてお話いただいた後、来年度岐阜県で行なわれる日環協・環境セミナー全国大会の概要について説明いただき、技術発表会の演題について検討

を行ないました。しかし残念ながらどの会員においても発表会で発表するような題材が見つからず、対応を河野代表理事に行なって頂くことになってしまいました。

会議終了後は河野代表理事を含めた六名で懇親会を開催し親睦を深めました。

第四ブロック長 豊田 豪

●第五ブロック

平成二十七年第二回となる第五ブロック会議を二月十二日午後豊橋市商工会議所にて開催いたしました。河野代表理事、手塚事務局長にも出席いただき、ブロック会員十八社中十五社にご出席いただきました。今年の十月に開催される日環協・環境セミナー全国大会の技術発表会に第五ブロックからも参加させていただきますこととしました。

また、理事会報告と各委員の近況報告を行い互いの情報交換をいたしました。会議終了後は懇親会を開催し、ブロック会員同士の交流を深めました。

第五ブロック長 大野 哲



# SOP(標準作業手順書)研修会報告

壽化工機株式会社 種田美咲子

\*\*\*\*\*

一月二十五日に開催された「SOP研修会」に参加しました。研修会では、講義でSOP作成の目的、作成手順を確認し、その後演習として実際にSOPを作成しました。さらに、より詳細なSOP作成の手引きを後日メールでいただきました。

SOPについての講義で印象に残っているのは、SOPは分析手順だけでなく、操作の注意事項などを加筆して更新していくものだという点です。

SOPは、分析手順を伝える際に、口頭で伝えられたことを自分で加筆するものだと思います。しかし、分析経験によって蓄積される注意事項をSOPに加筆することで、経験による差を少しでも埋められるのではないかと思います。

S分析のSOP作成では、研修会のテキスト内の作成手順と環境庁告示、JIS講師の方の助言等を参考に、グループで話し合いつつSOPを作成しました。グループ内でも

SSの分析経験が様々で、分析手順や使用器具を想像しつつ手順を作っていました。

手順が少なく思えるSS分析でも、グループで意見を出しながら作成すると、色々な意見があったことから、実際の作成時にも社内での分析経験者の意見を取り入れ、確認を取りつつ作成する必要があると感じました。

その後それぞれのグループで作成したSOPを発表し、質疑を受けると、異なる視点からの意見があり、参考になりました。異なる視点からの意見を踏まえ、この場合のSOPに必要なものでないか考

えることで、SOPを作る目的や対象の人、サンプルについて改めて考えることができ、とても有意義でした。この研修で、SOPを作成する意味について考えられたこと、分析をする同業者の方との繋がりができたことがとても貴重な経験でした。またこのような機会があれば参加したいと思います。



研修会風景



グループ討論風景

## 騒音振動 WG 勉強会報告

騒音振動WG委員 長田知也

(一般財団法人東海技術センター)

### 【勉強会の概要】

二月十二日、騒音・振動ワーキンググループでは、騒音・振

動分野の知識及び測定レベルの維持・向上を目的とした勉強会を開催しました。勉強会には、経験年数が一年に満たない初級技術者から十年を越えるベテラン技術者まで、のべ二十名の参加のもとで理解・交流を深める会になりました。

### 【勉強会の内容】

勉強会は以下の三つのテーマについて開催しました。

①基礎講習・障害物等による回折効果の影響について

基礎講習は、中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)の志賀委員に障害物等による回折効果の影響について講習をしてもらいました。講習内容については、初級レベルの「直接音の伝播」から上級レベルの「透過音を考慮した場合の回折減衰」まで六段階に分けて行いました。

②騒音・振動を要因とした苦情とその対応例の紹介

③その他(質疑応答)

「騒音・振動測定の失敗事例や参考事例」については、事前に事例提供を頂いた二社各位より「遮蔽物があった場合の

測定例」、「暗騒音が定常的に発生している場合の測定例」、「三階相当高さを対象とした測定例」等を紹介いただきました。

### 【感想】

今回の講習は、参加者の多くが現場対応について常に不安を持ちながら測定に携わっていることを実感しました。多くの騒音・振動技術者の不安要素を少しでも軽減するために、騒音・振動ワーキンググループとして意見交換の場をもっとたくさん提供する必要がありますを改めて実感しました。



勉強会会場

# 新賛助会員紹介

三浦工業株式会社 環境事業本部  
三浦環境科学研究所

環境営業部 小賀 吉昭

平成二十七年五月より新しく賛助会員となりました、三浦工業株式会社と申します。平素より三浦グループにご愛顧ご支援を受け賜り、誠にありがとうございます。今後とも御付き合いの程、よろしくお願い申し上げます。

三浦工業は一九五九年のZボイラの開発に始まります。以来、全社一丸となってお客様に役立つモノづくりに挑戦してまいりました。「熱・水・環境のベストパートナー」のもと、省エネルギーと環境保全でお役に立つため、日本国内の取組みで技術を培い、さらにその技術をグローバルに幅広く事業を展開しております。

この度、賛助会員として参加いたします三浦環境科学研究所は三浦工業の一部署として、「熱・水・環境」の「環境」の分野を担っております。「あいかんきょう」第一二七号の貴

重なページをお借りし、三浦環境科学研究所の紹介をさせていただきます。

三浦環境科学研究所は一九九一年に設立、松山市北条工場内に研究施設を設けています。

この施設ではダイオキシンの類分析を始め環境汚染物質（大気、水質、土壌）、低濃度PCB含有廃棄物分析を高い精度管理システムのもと信頼性の高い分析結果を迅速に提供し、お客様のニーズに的確に対応するよう努めております。この研究所は、日本で初めてダイオキシン類分析を対象とした化学試験においてISO/IEC17025を取得し、精度高い計測技術を確認してきました。

また、科学分析センターでは、最新の設備・機器を駆使し、全国約一〇〇拠点から送られてくるボイラや水処理機器の水質分析を日々行っております。



環境産業研究施設・三浦記念館 (愛媛大学農学部内)



三浦環境科学研究所

一方、分析業務で蓄積された技術・情報と市場の動向を研究開発に活かすため、愛媛大学農学部内に環境産業研究施設を設け、産学共同で研究を進めています。ここからは、弊社で販売している商品を紹介いたします。

## ダイオキシン類 自動前処理装置



ダイオキシン類自動前処理装置

### ◎特徴

- ・二検体同時に約二時間で処理
- ・加熱方式による高効率精製
- ・高い回収率、再分析率減少
- ・使用溶媒量の削減
- ・高濃縮、最終溶液トルエン約一・五ml

## ダイオアナ・フィルタ®



排ガス中ダイオキシン類採取用  
ダイオアナ・フィルタ®

### ◎特徴

- ・JIS K 0311:2005にJIS(II)形採取装置として規定
- ・準備、採取、抽出、洗浄などの操作の簡便化
- ・使用溶媒量の削減

## ダイオフロック®



水中ダイオキシン類分析用  
ダイオフロック®

### ◎特徴

- ・準備・抽出などの操作の大幅な簡便化、迅速化
- ・コンタミの低減化、精度向上

## PCB分析前処理装置



PCB分析前処理装置  
ラビアナ®カラム

### ◎特徴

- ・約二時間で六検体同時処理
  - ・加熱精製により妨害物質を高効率に除去
  - ・油種に関係なく同じ作業
  - ・低濃度PCB含有廃棄物の前処理にも対応
- 愛知県環境測定分析協会の皆様との交流の中から、皆様のニーズを感じ取り、皆様に役立つ新しい商品の開発を目指したいと思っております。今後とも良きパートナーとなる様に努めてまいります、宜しくお願い申し上げます。

### 新企画 水素社会

「水素社会と低炭素社会」

(連載：第一回)

トヨタが燃料電池車「ミライ」を発表したことで、いよいよ水素社会の到来かと思つたのだが、確かに車の排ガスによる大気汚染は少なくなるが、果たしてCO2の削減になるのかと考えてみた。

水素の製造で思い出されるのは、高校の時に習つた水性ガスである。これは熱した炭素に水蒸気を通ずると、COとH2ガスを発生するというものだが、水から燃料が出来るということに少々驚きを感じたものだ。

#### 反応式① 参照

この反応を利用したものに、戦前・戦後の物資欠乏時代に普及した木炭自動車がある。バスやトラックの後部に縦型の釜を備え、ここで木炭や薪を不完全燃焼させてガスを作るのが、燃焼の制御が難しく大部分がCOガスでH2の割合が少なく、燃料としては低質であったので坂道で

は登りきれず、乗客が降りてバスを押すということがしばしばあった。

水素そのものは化学工業では、アンモニアやメタノールの製造、炭化水素の改質(水素化)などに欠かせない基幹物質である。その製造の大部分は、メタンと水蒸気に熱を加えて水素を作るといふ水蒸気改質法である。(水性ガスによく似ている)

#### 反応式② 参照 反応式③ 参照

それでは、水素を製造するために必要なメタンはどこから来るのかと言うと、今のところ化石燃料が大部分である。確かに燃料電池車の燃料は水素であるから、排ガスはクリーンである。しかし、水素を作るために化石燃料を消費すれば、燃料電池の普及が低炭素社会への一助になるとは言い切れない。また、家庭用に開発された発電装置「エネファーム」も、都市ガスやLPガスを原料として水素を取り出すので原理は同じである。これらの方法は、よく見れば水を原料としており、炭素による水の還元反応であることが分かる。この反応は、

酸化鉄から酸素を奪い取るという鉄の製造と同じことである。

水素製造法としては、このほかに水の電気分解法やバイオガスの改質化などがある。電気分解法による水素は現在、NaOH製造時の副生物として得られるだけで産業化されていない。最近注目されているのが、風力や太陽光発電で得られた電気水を電気分解する方法であるが、この方法が普及すれば完全な再生可能エネルギーによる水素製造となる。バイオガスの改質化は、木質チップを熱分解して得られるメタリッチなガスを、水蒸気と反応させH2ガスを得るといふものであり、間伐材の有効利用として今後期待される技術である。(上記の反応式②と同じ)

まだまだ続く鉄の時代、身の回りにある使い捨ての石油化学製品など、資源の消費と循環において炭素は重要な位置を占めているが、鉱物由来の炭素消費を減らさない限りCO2の削減は困難であることは明白である。原発事故の収束もままならない今日、低炭素社会の実現のためには鉱物資源の節約は言うまでもな

く、再生可能エネルギーやバイオ資源の活用を進めるしか道はないのではないか。よくよく考えると、我々の社会生活や生態系のエネルギー循環は炭素を中心に回っているのだから、水素社会の到来といつても、すぐに低炭素社会になるわけではない。できる限り化石由来の炭素源を減らした水素社会を実現することを希望したい。

(文責 佐野教信)

参照

反応式①  $C + H_2O \rightarrow CO + H_2$

反応式②  $CH_4 + H_2O \rightarrow CO + 3H_2$

反応式③  $CO + H_2O \rightarrow CO_2 + H_2$



### 「私の履歴書」

「愛環境協、日環協の協会活動を振り返って」(連載：第四回)

「村山博会長の突然の死」から「新会長の候補として藤原昭二氏を推薦」まで

愛知県環境測定分析協会  
顧問 濱地 光男



### 九村山博会長の突然の死

昭和六十三年(一九八八年)と記憶しているが、村山会長が動脈瘤破裂で突然の死を迎える。

数日前には元気で私と打ち合わせをしていたのに計報を聞いた時には信じられず、当時の二代目事務局長八神甫氏(愛知県環境部出身)に電話口で何度も聞き返した記憶がある。村山会長は私達には話をされなかつたが、本人は動脈瘤を抱えている事は覚悟の上であったようだ。奥様には「お腹が痛い

「から病院に寄って帰る」と電話で告げ病院に着いた時は既 handsの付けられない状態でその数時間後に亡くなられたそうだ。村山会長は海軍の出身者で、その風格を思わせるようにお年ではあったが体格よく、背も高く、歩く姿勢は立派であった。業界活動には大変熱心で毎日のように愛知県商工部、環境部を出入りされていた。業界の健全な発展を願う協会事業の活性化に傾注されていた事には当時私も感服した次第である。

十、堀田副会長急遽会長代行



堀田 献氏

急な村山氏の死去に伴い、副会長を務めておられた東海技術センターの堀田献氏、いずみ化学工業(現在のイズミテック)の鈴木薫氏であったが、協会業務の性格上名古屋市内に事業所がある堀田氏が会長代行として平成元年の総会まで勤められ、その後、村山氏の任期途中であった後一年間を会長として勤められた。

この間の重要課題は次期会

長の候補者問題であった。候補者選出には先ず故村山氏が念願としていた協会の公益法人化を強力に推進できる方。要するに愛知県に対して力のある人物探しである。

十一、新会長の候補として藤原昭二氏を推薦

次期会長の候補者探しには、堀田会長、鈴木、三輪両副会長、事務局私の五名で行った。堀田氏の後の会長は東海技術センターから候補を推薦してほしかったのである。協会会長となるとそれなりの立場と、県と折衝できる方となると、東海技術センターの専務理事と云う事になる。しかしながら専務理事は数年で退任されるが多く、法人化に向かってある期間腰を据えて会長職を受けて頂ける方となると難しい問題があった。



藤原 昭二氏

なかなか皆さんから良い提案がないことから、候補者について私が真剣に考えざるを得なかった。そこで条件を整えた方が候補者を考えた末、その当時中部電力の關係会社で、主に環

境アセスメントを業務としていた中部環境緑化株式会社(後のテクノ中部)の専務藤原昭二氏を推薦する事にして皆さんに諮った処、賛成であるが私に先ず口説いて来いと指示を受け、面会する事になった。藤原昭二氏は海兵隊の出身、故村山元会長と同じである。藤原氏は中部電力に入社され、主に発電所立地に係られ対住民との折衝など大変苦労された経験を持つておられ、その後中電の關係会社でアセスメント事業をも担当される等あり、古くから愛知県環境部とは多くの方と顔見知りでもあった。また、藤原氏は蝶の収集家としても有名な方であったが、残念ながら蝶の収集について話を聞く機会が無かった。この様な経歴の持ち主で愛環協の法人化推進には理想的な方であった。

(次号に続く)

環境時の話題  
「イベルメクチンについて」

その一

「はじめに」から「リンパ系フィラリア症まで」

一、はじめに

二〇一五年のノーベル医学・生理学賞は、世界的に患者数が多い寄生虫病の新規の治療薬イベルメクチンを開発したことに

より、北里大学の太村智博士らに贈られました。イベルメクチンはイヌの寄生虫病(フィラリア)の予防薬にも使われています。今回は、大村博士の開発した新薬について考えてみたいと思います。

二、寄生虫病とは？

感染症とは、人に病気をひきおこす病原体が、他の生物を介して人に、あるいは人から人に感染して起きる病気です。病原体には、ウイルス、細菌、寄生虫などがあります。例えば、一九五〇年代の日本で年間五〇万人以上の発症者、一万人以上の死者を出していた結核は、結核菌という細菌がひきおこす呼吸器の感染症であり、かぜやイン

フルエンザは、コロナウイルスやインフルエンザウイルスなどのウイルスがひきおこします。

そして、寄生虫による感染症を寄生虫病といえます。寄生虫病は、現在でも世界で二〇億人以上が発症しているといわれており、とくにアフリカ、中南米、アジアでは重症患者も多くなっています。

三、オンコセルカ症

代表的な寄生虫病の一つである、オンコセルカ症は、黒バエから感染する「回旋糸状虫(かいせんしじょうちゅう)」という線虫(寄生虫の一種)が、人に寄生しておきる感染症です。回旋糸状虫の幼虫をもつ黒バエに刺されると、幼虫が人の体内に入ります。幼虫は体長約一mmですが、成長して成虫になると三〇〜五〇cmにもなり、「ミクロフィラリア」と呼ばれる子どもを毎日約千匹も産みます。ミクロフィラリアは体長約〇.三mmですが、大量のミクロフィラリアが皮膚の下で動くことで激しいかゆみが出ます。さらに、ミクロフィラリアが目に移動すると、網膜で炎症がおきて視力が低下し、最悪の場合は失明します。

オンコセルカ症は、黒バエの

生息地であるアフリカの川沿いで多く見られるため、「河川盲目症」とも呼ばれています。現在までの患者数は二五〇〇万人以上、失明にまで至った患者は三〇万人以上といわれています。

四 リンパ系フィラリア症  
リンパ系フィラリア症は、蚊から感染する「バンクシロフト糸状虫」などの線虫によってひき起こされます。人の体の中で成虫になると、人の体中にはりめぐらされているリンパ管にすみつきます。成虫は、先ほどの回旋糸状虫と同じようにマイクロフィラリアを産み、それらがリンパ管を傷つけ、やがてリンパ液の流れが悪くなり、むくみができます。さらに進行すると、皮膚の表面がかたくなり、むくみが巨大化し、象の皮膚のように見えることから、「象皮症」とも呼ばれます。

リンパ系フィラリアは、現在でも一億人以上の患者がいると推定されています。日本でも昔は九州地方でよく見られた感染症で、西郷隆盛も象皮症だったといわれています。

(次号に続く)

(文責 大場恵史)

愛知県環境部からの  
お知らせ

\*\*\*\*\*

愛知県では、モリコロパーク内にある環境学習施設「もりの学舎」において、五月二日(月)及び六日(金)を除く四月二十九日(金)から五月八日(日)まで、ゴールデンウィーク特別企画として、インタープリターと一緒に自然とふれあう「もりのツアー」や「あそび工房(工作教室)」などのイベントを実施します。特に、四月三十日(土)及び五月三日(火)から五日(木)までの四日間は、愛環協及び(一財)東海技術センター・(株)環境科学研究所の協力を得て実施します。

事務局からのお知らせ

○新任者研修会

平成二十八年六月十日(金)

日本特殊陶業市民会館

○環境月間講演会

平成二十八年六月十四日(火)

日本特殊陶業市民会館

○初級統計研修会

平成二十八年七月開催予定

平成28年度 「環境に関する喚起標語」 入選者一覧

	作品	所属	氏名
特選	確かな精度で 守ろう環境 築こう信頼	(株)環境科学研究所	畠山 陽子
佳作	キレイな環境を守るのには、まずキレイな試験環境から	(株)環境科学研究所	浅田 怜志
佳作	信頼は確かな作業の積み重ね 真心こめて環境計量	(株)ノリタケカンパニーリミテド	伊藤 慶子
佳作	正しい測定 正しい結果で 正しく対応	(株)環境公害センター	牛古 誠
佳作	わたしたちが届けます 確かな信頼 環境計量	藤吉工業(株)	幸田 英顕
佳作	確かな精度 ひとりひとりの 向上心と心がけ	(株)環境科学研究所	谷 真美
佳作	自然との 共存社会を創る 確かな計量	(株)環境科学研究所	日和田 志郎
佳作	守り抜く 確かな計量 後世へ	(一財)東海技術センター	松原 和栄
佳作	大丈夫 安心してください ちゃんとはかっていますよ	(株)イズミテック	森安 真由美
佳作	良い環境 正しい数値が作りだす	(株)東海分析化学研究所	山口 伊佐子
佳作	次世代に繋げよう 確かな技術と技術者倫理	(株)イズミテック	吉見 依理

(佳作は氏名の五十音順)



編集後記 (市川ゆかり)

より読み応えのある会報誌を目指し、今回より新連載が始まりました。次号からは以前から検討しておりました横書きの会報誌にリニューアルします。変わってゆく「あいかんきょう」にご期待ください。

今号の編集は、菊谷委員長と市川が担当しました。広報委員一同、今後も皆様に楽しんでいただける会報誌を目指していきます。

よろしくお願いいたします。

今号表紙の四季折々は、菊谷委員長が担当しました。



発行人(一社) 愛知県環境測定分析協会  
代表理事 河野 達郎  
〒460-0022  
名古屋市中区金山1-2-4  
アイディエリア405号  
TEL・FAX 052-321-3803  
E-mail aikankyo@nifty.com  
編集 (一社)愛知県環境測定分析協会  
広報委員会